

2021年10月  
1165号

# 百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

## 新生 一冊の会 オンライン櫻華塾

～58年目のスタート～

夏の暑さもだいぶ遠のき、新型コロナウイルス感染症の「第5波」も落ち着きつつある10月10日、オンライン櫻華塾としては2回目。一冊の会57年目の年としては最後となる櫻華塾を開催しました。

本日は嬉しいことに馬居政幸先生にご参加いただきました。先生には『1946・4・10初の婦人参政権行使と日本女性自立への出発』(通称ブルーの本)の監修をしていただきました。この本が完成したのは先生のおかげです。また、この本を発行したことで、2000年に朝日新聞の「ひと」の欄に大槻会長が掲載されました。また他の新聞や本等にも掲載され、講演等引っ張りだこでした。

### 【馬居先生ご挨拶】

ご無沙汰しております、今も静岡大学名誉教授であることには変わりませんが、今年から静岡県立大学で教えることになり、現役復帰しましたのでよろしくお願ひします。今こうやって見ても若い方から会長に近い年齢の方まで、世代を超えて集まり素晴らしいと思います。先ほどブルーの本の話ができましたが、大槻会長と最初にお会いしたのが、この本の制作時でした。会長は世代を超え、様々な多様な方達をまきこんで、世界の皆さんに認められ、日本を代表する女性活動家としての地位を築いてられました。その端っこではありますが、表現者としての役割を果たせたということには感謝しております。72才になりましたが、若い皆さんと学ぶ機会ができ、会長のもとで一仕事できたらと思います。よろしくお願ひします。



### 【一冊の会58年目のスタートに向けて】

#### 『小山副会長から』

コロナで出来ない事が多かった期間でしたが、この機会が無ければ資料を整理することはできなかつたと前向きに考えています。今回、コロナ渦でできた時間で一冊の会の歴史や資料を整理したところ、活動を開始したのは「1963年、大槻明子29才の時」という記録が出てきました。今まで30才とお伝えしてきましたが、当時、年齢は「数え」で数えておりました。途中から満年齢で表記するようになったため混同していました。また、支援物資をお届けした時ではなく、物資を集め始めたところから活動のスタートと考えます。当時の会長の年齢が29才だと判明したことを石田理事長に伝えたと、数えと満年齢で混乱することはよくあることで、会長が存命している訳だから、今、きちんと直した方がよいと助言いただき、全てを直しております。今回石田理事長は参加予定でしたが、お電話があり「今日は駆けつけたい思いでいっぱいですが、馬居先生を中心によろしくお願ひします。」とのこと。この機会にしっかり整理し、一冊の会の歴史は、1963年から57年と訂正、2021年10月27日から58年目のスタートとなります。清らかな気持ちで、「新生・一冊の会」を踏み出していきたいと思ひます。

### 【大槻会長から】

活動を始めてから57年間、ただ机に向かって机上の空論を学ぶのでは無く、現場第一、実践第一で活動してきました。“見てみよう！聞いてこよう！語り合おうよ！友好の輪！10人の友人作り！”これを本気で実践するという事は容易なことではありません。“名誉・地位・財産・学歴・年齢・男女・国籍を問わない会”ですが、やる気がある人に声をかけ少しずつ輪を広げながら57年経ちました。58周年を迎えるにあたって

初代事務長の原祐子さんについてお話ししたいと思います。原さんは、長崎から引っ越し、私の家の側に住んでおりました。長崎で原子爆弾に被爆し白血病になりお亡くなりになりましたが、この人と共に一緒に物事を決めて始めました。1つ目は、国連の流れに沿うこと。2つ目は、命の尊厳を第1とすること。3つ目は、核反対。原さんは私と組んでから数ヶ月後に白血病で亡くなってしまいましたが、この3つの原則を貫いて今日を迎えています。

いま新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、パンデミックで世界が封鎖されるまでの事態となりました。皆様と月1回勉強を重ねて参りましたが、2年近く集まることは叶わず、事務所への来訪も制限されてきました。感染症の猛威も大分収まりつつありますが、気を休めることなくもう少し集まる事を控え、学びを続けて参りましょう。

#### 『世界メンタルヘルスデー』

今日、10月10日は、今から57年前、1964年（昭和39年）に東京オリンピックが開催された記念の日です。オリンピックを記念し体育の日となりましたが、当時有色人種国家における初の開催でした。これを機に開発途上国の支援に取り組み始めるきっかけとなりました。

さらに、10月10日は世界メンタルヘルスデーです。メンタルヘルスとは体の健康ではなく、こころの健康状態を意味します。心が軽い、穏やかな気持ち、やる気が沸いてくる。

それは、心が健康といえるでしょう。やる気満々で調子がよく過ごせるようにお互いが気をつけていきたいものです。心の病気は本人が苦しんでいることが分かりづらく、ひとりで抱え込まず周りの人に相談すること、お互いに気をつけていくことが大事です。まずは私達がメンタルヘルスとは？と考えることが大切です。厚生労働省が主催する世界メンタルヘルスデー2021は、「つながる、どこでも、だれにでも」をテーマに掲げ、メンタルヘルスデーの本日、東京タワーが夕方6時から24時までライトアップされます。



世界メンタルヘルスデーのサイトから

#### 『国連人権理事会』

9月13日から10月8日の期間、国連人権理事会の第48会期がスイスジュネーブで開催されたことも、「国連の流れと共に」をスローガンに掲げている櫻華塾としてはきちんと勉強しなくてはなりません。今年は「人権教育および研修に関する国連宣言」採択10周年でもあり、人種・性別・言語・宗教の区別無く全ての人の人権と基本的自由を尊重することを、一冊の会の学習カリキュラムのなかに取り入れております。また今後、更に外国人を受け入れ、多様性を認め、公平・包容力のある人材を育成しポストコロナの時代を担っていくことが大事です。今日は時間の制約もありますので簡単にお伝えするのみとしますが、必ず時間を設けて学びを深めましょう。

#### 『復興祈念樹 雪香プロスパーポローニアの植樹』

一冊の会は2011年3月11日東日本大震災以来1人1人の人権を大事に寄り添いながら活動してきました。その1つが「復興祈念樹」の植樹です。樹の名前は「雪香プロスパーポローニア」。条件が良いと5年で直径30cmに成長する桐の木（早生桐）です。植樹を始めて10年という節目の今年、南相馬市から感謝状をいただけるというお話がありました。11月3日の授与式に合わせての訪問を予定していましたが、コロナの影響で式は取り止めとなってしまいました。このような嬉しいお話があったことを皆様にお伝えします。

植樹は、北は青森から南は福島の前橋市まで、その後南相馬市等、除染作業が進み環境が回復した地域へも植樹をしております。今後、東京の方へ向かって、各自自治体と連携をし、植樹をして参ります。17日には南相馬市に2度目の祈念植樹をして参ります。現地では市役所のご協力での植樹用の穴も掘って下さる事になっております。一冊の会は、ただ植樹して終わりではなく、その後のメンテナンスを含め被災地へ寄り添った支援をして参ります。是非引き続き皆さまのご支援をいただければと思います。コロナという逆境にめげずに活動を続けて参りましょう。

#### 【人事について】

一冊の会は若手の人材育成をしております。新しい人事が大槻会長から発表されました。赤田美香子、城杉清佳は今まで一冊の会研究員でしたが、主任研究員になりました。山内聖士は事務局次長になりました。

最後に、オンラインで「お久しぶり」、「お元気ですか」など声を掛け合い、終了いたしました。集まることは叶わなくとも、心を通わせ活動していけることを改めて認識し、コロナ渦という試練ではありますが、オンラインも活用しつつ引き続き活動を続けていきたいと思います。



文責：城杉主任研究員、赤田主任研究員